

## 国際農業工学 第3回レポート

### (1) 八田與一について

八田與一氏は、台湾での烏山頭ダム建設に成功した功績により、台湾でもっとも有名であると言われている日本人である。八田氏は1910年東京帝国大学土木科を卒業後、日本統制化の台湾総督府に就職した。当時、台湾の華南平野は広大な面積を保有しながらも、雨季になると洪水が発生してしまうなどの治水問題により、作物の育たない不毛の地であった。（華南平野は下図の嘉義・台南両庁を含む区域。）八田氏はこの問題を解決するため、烏山頭ダム建設を立案し、現場の指揮を務めた（京都経済同好会）。烏山頭ダムは1920年から10年かけて完成に至ったが、その途中では日本本土で関東大震災が起こるなど多くの困難があった。その中でダムを完成まで導くことができた八田氏の功績がたたえられ、烏山頭ダムを見下ろすことのできる場所には彼の銅像が建てられている。現在でも、彼の命日には地元住民など多くの人々が集まり、追悼式が行われている。



出典: <http://wikitravel.org/ja/%E5%8F%B0%E6%B9%BE>

### (2) 農業開発に携わる場合に心がけるべきこと

授業で見た映像から八田氏が烏山頭ダムの建設を成功に導いた要因を挙げ、農業開発において心がけるべきことを考えていきたい。

烏山頭ダム建設において、まず、八田氏が俯瞰的・長期的な視点をもって問題に対処したことが重要であったと考えられる。彼がダム建設の立案をしたとき、烏山頭ダムはあまりに大規模なため、技術的にも予算的にも不可能とされ、なかなか許可が下りなかった。彼は「その場しのぎではいけない」と訴え、粘り強く交渉していったが、そこで諦めてダムの規模を小さくしてしまっていれば、たとえダムができて華南平野の治水問題はあまり改善されなかったであろう。

また、その実現可能性を示すために具体的で綿密な計画が必要であったと考えられる。これまでにない大規模な事業を行うとき、前例がない分より綿密な設計計画が求められる。八田氏は計画書を何度も練り直し、施工の許可を求める交渉をしていったが、その綿密な計画が烏山頭ダム建設の成功要因の一つであると考えられる。

さらに、八田氏が成功したもっとも大きな要因は、地域住民に寄り添った事業展開を行ったことである。労働者が家族とともに住むことができるよう建設現場近くに街を作るといった労働環境の改善や、労働者の大量解雇時に日本人より台湾の人々を優遇したことなどで、初めはダム建設にあまり理解のなかった住民たちもしだいに協力的になっていった。地元の住民たちに慕われるようになったからこそ、建設現場での事故などの困難があっても工事を進めていくことができたのであろう。

これらの成功要因から、農業開発においては、全体を見わたす視点をもって事業に取り組むこと、綿密な計画によって実現可能性を吟味すること、地域住民の要請に沿う開発を行うことが重要であると考えられる。

参考：

京都経済同好会「台湾で最も有名な日本人、八田與一技師」,  
<http://www.kyodoyukai.or.jp/essay/%E5%8F%B0%E6%B9%BE%E3%81%A7%E6%9C%80%E3%82%82%E6%9C%89%E5%90%8D%E3%81%AA%E6%97%A5%E6%9C%AC%E4%BA%BA%E3%80%81%E5%85%AB%E7%94%B0%E8%88%87%E4%B8%80%E6%8A%80%E5%B8%AB> 2015/4/27 アクセス

動画「八田與一 台湾の教科書に載っている日本人の物語」  
<https://www.youtube.com/watch?v=fA6uIAFDUw>